

企業ニュース 東京製鐵

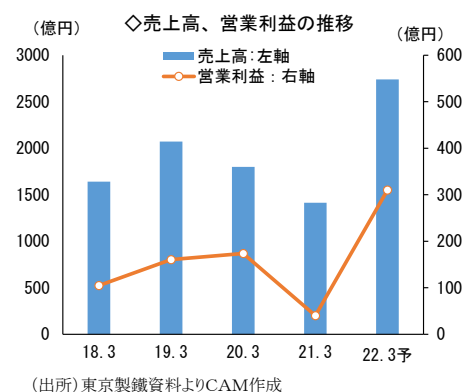
(東証1部：5423) <http://www.tokysteel.co.jp/>

作成者: 奥村義弘

世界最大級の電炉メーカー

1934年、各種鋼材の製造販売を目的に設立。平炉、電気炉をベースに小形・中形工場からスタートした。高度成長時代に大形形鋼を作り出す岡山工場、電気炉を備えた九州・高松工場を次々に完成。連続鋳造設備など新技術を導入してきた。H形鋼・異形棒鋼を主力に各種の形鋼、近年ではホットコイル・酸洗鋼板・表面処理鋼板等の鋼板類と鋼矢板など幅広いニーズに対応、世界最大級の電炉メーカーに成長した。

また、脱炭素化がクローズアップされる中、鉄くずを電炉を使ってリサイクルする方式が見直されている。電炉は製造時のCO₂排出量が、鉄鉱石と石炭を使う高炉の4分の1にとどまる。また、電炉で使用する電力を再生可能エネルギー由来の電力に切り替えるなどの取り組みも進められている。



量産効果とメタルスプレッドの拡大で業績大幅改善

22.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は売上高が1,161億円、前年同期比72%増、営業利益が110億円、同3.4倍。7-9月期は、内外の鋼材市況が高値圏で推移した。同社の鋼材販売価格は前第2四半期累計期の6.34万円／tから今第2四半期累計期は8.90万円／tに上昇した。一方、主原料の鉄スクラップは海外の市況上昇が一服、購入単価も想定を下回る動きとなった。損益面では、操業度の改善や安価な原材料在庫の活用も利益貢献した。

22.3期通期の会社計画は売上高が2,740億円、前期比94%増、営業利益が310億円、同7.8倍。従来計画から、売上高で300億円、営業利益で90億円の上方修正。これは、中国において環境対策として生産抑制が行われるなど、海外の鋼材需給の引き締まった状態が継続すると予想されることや、国内も大型建築物の出件で鋼材需給が堅調に推移すると期待されるため。また、鉄スクラップの上昇はあるものの、製品出荷単価が2008年以来の10万円を超える水準となる見込みで、メタルスプレッド（鉄鋼製品価格－鉄スクラップ価格）拡大による利益貢献が予想される。岡山工場での熱延設備の再稼働を発表したが、中長期での旺盛な需要に応えるものと言えよう。

【株価動向・投資判断】

脱炭素化の流れが強まっていることもポジティブ、今期の増配計画の発表も好感されよう。

<5423 東京製鐵 業績: 単独>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	179,924 (▲13)	17,360 (8)	17,858 (3)	13,795 (▲11)	103.5	15.00
21.3	141,448 (▲21)	3,995 (▲77)	4,994 (▲72)	5,889 (▲57)	48.0	16.00
22.3 予	274,000 (94)	31,000 (676)	32,000 (541)	28,000 (375)	236.0	25.00



【主要株価指標】 (売買単位: 100株)	
株価 (2021/10/29)	1,266 円
年初来高値 (高値日)	1,368 円 (21/10/26)
同 安値 (安値日)	649 円 (21/1/20)
予想 P E R (22.3 予)	5.4 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,183.9 円
P B R	1.07 倍
予想配当利回り	1.97 %
(1株当たり配当金年25.00円)	
R O E (21.3)	4.5 %
発行済み株式数	15,506 万株